

基本的生活習慣や学習習慣をはぐくむ、小学校低学年の指導の在り方

佐賀市立春日北小学校 教諭 山下 美紀

佐賀市立春日小学校 教諭 山田 照昭

1 グループ研究の趣旨

少子化、核家族化などの影響により、子どもたちがこれまで、家庭や地域社会の中で体験を通して身に付けてきた好ましい生活態度や生活習慣を身に付ける機会が乏しくなっている。そのような状況の中で育ってきた子どもは、周囲とのかかわりがうまくもてない、学習に落ち着いて臨めないなどといった問題を抱えている傾向が強い。

平成16年度に実施された佐賀県学習状況調査によると、「朝食を摂る」や「自分で学習の準備をする」などの習慣が身に付いている子どもの正答率が高く、学年が上がるに連れて、その差が大きくなるという結果が出ている。また、小学校の低学年期に基本的生活習慣が身に付かなかった子どもは、特別な指導をしない限り、高学年になってもその習慣が改善されないという調査報告もなされている。以上のような問題点を解決するためには、小学校の低学年期に基本的生活習慣や学習習慣を身に付けさせる指導方法の工夫改善が必要であると考えます。

基本的生活習慣とは、人が毎日健康的に生活を送るうえで身に付けなければならない最低限度のルールと考える。小学校低学年期に指導する基本的生活習慣の内容を、小学校指導要録では、「安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする」と記してある。学習習慣とは、学習を支える大切な習慣である。ところが、子どもの中に発達段階に応じた生活習慣や学習習慣が教師の期待ほど形成されていないことがあったり、形成されたとしてもまた崩れてしまったりするなど、効果的な指導がなされているとは言えない。

そこで、本グループでは、小学校の低学年期の子どもに基本的生活習慣や学習習慣を育成するために、形式の指導だけではなく、子どもの意識を高め、内面化を図る視点から指導の手立てを考えていくこととした。

2 研究の内容と方法

(1) 内容

基本的生活習慣や学習習慣をはぐくむためには、実践を続けながら、意欲を高めていくことが必要である。そのための学級活動を中心に、道徳や日常の活動を関連させたプログラム構成を考える。子どもが望ましい態度を身に付け、実践を継続していくための具体的な方策をまとめていった。

(2) 方法

多岐にわたる指導項目の中から、低学年期に必要とされる項目を整理し、指導の手立てを考えた。

ア 「快」感情を高めるプログラム構成

道徳の時間を土台として、学級活動では、望ましい生活習慣を行うことと「快」感情を結び付けさせ、実践への意欲をもたせる取組を行った。日常の活動では、「快」感情を味わわせる場を設定した。これらを行うことで、子どもの「快」感情を高め、実践への意欲へつなげる。

イ 有能感を高めるプログラム構成

人とかかわる態度を身に付けるために、練習の場を学級活動や日常の活動の中に取り入れた。振り返りの場で、練習したことや実践したことを自己評価、肯定的な他者評価をすることで、実践への意欲へつなげる。